

	ゼミナール名	ゼミナールⅢ（刑法）		
	ゼミ担当者名	秋山 栄一		
	科目分類	専門科目群		
	開講年次	4年次	開講期間	通年
	開講時限	水曜日3限	単位数	2単位
	実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 対面のみ <input type="checkbox"/> 遠隔のみ <input type="checkbox"/> 対面・遠隔併用		

ゼミのテーマ	刑法理論の探求
ゼミの到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・法学的視点（特に刑事法学）から、社会現象を考察することができる。 ・学生各々が興味と関心をもった刑法学上の論点・テーマについて検討し、ゼミナール論文としてまとめることができる。 ・刑法学を手段として、他者の存在を自覚し、物事に対する深い洞察力とそれに対する的確な判断力を養う素地をつくる。
ゼミの概要	<p>本ゼミナールは、刑事法関連科目、ゼミナールⅡの延長線上として、学生主体の研究活動を主とする。ゼミナールⅡでは、判例・裁判例を中心とした報告・検討であったが、本ゼミでは、主要な学説にも言及し、総合的な報告・検討を行う。最終的にはゼミ論文を完成させる。なお、後述の授業計画については、学生の理解度、履修状況により変更されることがある。</p>
授業時間外の学習	<ul style="list-style-type: none"> ・日頃、マスコミなどを通じて報道される社会の現象（特に、法律問題・犯罪現象）に関心をもつこと。 ・指定されたテキスト、資料を事前に検討することを怠らないこと（1.5時間程度）。 ・各々設定したテーマに関する判例・学説を、適宜図書館等を活用し、調べ、まとめるために、ゼミナール以外の時間の準備を怠らないこと（最低1.5時間程度）。
履修条件	<ul style="list-style-type: none"> ・刑事法学に興味と関心をもっていること ・ゼミナールのルールを遵守できること（報告・発表の遵守、日頃からゼミメンバー同士・秋山とコミュニケーションがとれる、ゼミ行事の参加などのゼミ運営への協力等、詳細はゼミにて説明する）。 ・必要な予習、復習を必ずし、最終的にゼミ論文を完成させること。論文としての体裁を維持できるものは学生論文コンクールに応募すること。 ・刑事法関連科目を履修済みであること。 ・出席回数が規定に満たない場合及び授業料その他納入金等の全額を納めていない場合は、単位を認定できない。 ・出席確認時に不在だった場合は、原則としてその回は欠席とする。 ・授業中に無許可で退出した場合は欠席とする。
テキスト	学生のテーマに従って、適宜指示・紹介する。
参考文献・資料	<p>大塚仁他編『大コンメンタール刑法〔第3版〕1巻～』青林書院、山中敬一監『ロクシン刑法総論〈第1巻基礎・犯罪論の構造〉〔第4版〕〔翻訳第1冊分〕』信山社・2019、山中敬一監『ロクシン刑法総論〈第1巻基礎・犯罪論の構造〉〔第4版〕〔翻訳第2冊分〕』信山社・2009、山中敬一監『ロクシン刑法総論〈第2巻犯罪の特別現象形態〉〔翻訳第1冊分〕』信山社・2011、山中敬一監『ロクシン刑法総論〈第2巻犯罪の特別現象形態〉〔翻訳第2冊分〕』信山社・2012等。その他学生のテーマに従って、適宜指示する。</p>
成績評価の方法	定期試験40%、報告・発表、姿勢60%の割合で厳正に評価する。
オフィスアワー	原則として、月曜日14:40～16:10、水曜日14:40～16:10、 ※ 事前に連絡をもらえるとありがたい。その他時間が空いていれば適宜対応する。

成績評価基準	秀(100～90点)、優(89～80点)、良(79～70点)、可(69～60点)、不可(59点以下)
学生へのメッセージ	ゼミ論文の執筆は、学生生活の集大成といっても過言ではありません。これを完遂するよう集中して取り組んでいきましょう。また、継続的にゼミでの交流を大切にしていきたいと思います。

授業計画			
第1回	ガイダンス、学生のテーマの設定の確認	第17回	各々のテーマについて学生個別報告・検討③-1
第2回	各々のテーマについて学生個別報告・検討①-1	第18回	〃 ③-2
第3回	〃 ①-2	第19回	〃 ③-3
第4回	〃 ①-3	第20回	〃 ③-4
第5回	〃 ①-4	第21回	〃 ③-5
第6回	〃 ①-5	第22回	〃 ③-6
第7回	〃 ①-6	第23回	フィードバック③
第8回	フィードバック①	第24回	各々のテーマについて学生個別報告・検討④-1
第9回	各々のテーマについて学生個別報告・検討②-1	第25回	〃 ④-2
第10回	〃 ②-2	第26回	〃 ④-3
第11回	〃 ②-3	第27回	〃 ④-4
第12回	〃 ②-4	第28回	〃 ④-5
第13回	〃 ②-5	第29回	〃 ④-6
第14回	〃 ②-6	第30回	ゼミ論文の提出と補正作業
第15回	〃 ②-7	第31回	論文の補正作業の確認とフィードバック④ 最終提出
第16回	フィードバック②	第32回	定期試験

	ゼミナール名	ゼミナールⅢ（民法）		
	ゼミ担当者名	石川 信		
	科目分類	専門科目群		
	開講年次	4年次	開講期間	通年
	開講時限	水曜日3限	単位数	2単位
	実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 対面のみ <input type="checkbox"/> 遠隔のみ <input type="checkbox"/> 対面・遠隔併用		

ゼミのテーマ	民法の発展的知識（とくに不動産法と債権改正）を学修し、実務に活かす。
ゼミの到達目標	1. 「不動産法」を詳細学修し、不動産取引の実務を知る。 2. 「債権法改正」の概要を知り、その課題を理解する。 3. 各種資格試験（宅建試験、公務員試験等）に合格する。
ゼミの概要	1. 民法を復習（小テスト）して、「不動産私法」と「不動産公法」を学修する。 2. 民法（債権法）改正の概要を学修し、ゼミ生が個別テーマを共同研究し発表する。
授業時間外の学習	授業外では、仲間と多事争論して、確実な知識を修得すること そして、社会では、謙虚な気持ちで民法を実践すること
履修条件	共同学修を厭わず、主体的に自学自習する覚悟のある学生であれば、誰でも入室を歓迎する。 不動産関係の法律系試験を受験する学生にとって有益なゼミであろう。
テキスト	必読テキストは指定しない。代わりに、私製編集の教材を配布する。
参考文献・資料	各テーマに即して、適宜指示する。
成績評価の方法	期末試験 30%＋ゼミ履修状況（小テスト、発表、質疑応答、レポート）70%を総合して評価する。 出席回数が規定に満たない場合及び授業料その他納入金等の全額を納めていない場合は、試験を受けることができない。
オフィスアワー	大学指定のオフィスアワーほか、随時に研究室で質問・相談を受ける。
成績評価基準	大学所定の評価基準（秀、優、良、可、不可）に従う。
学生へのメッセージ	ゼミⅢは、ゼミⅡよりも学修レベルが高く指導も厳しいと覚悟すること。それでも、折々に「コーヒー」でも飲みながら、民法周辺を歓談しよう。

授業計画			
第1回	民法の復習1 (財産法)	第17回	建築基準法1—建築基準法の意義、概要
第2回	民法の復習2 (家族法)	第18回	建築基準法2—建築基準法の制限 (建築制限)
第3回	民法の復習3 (債権担保法)	第19回	不動産法の課題 (まとめ)
第4回	民法の復習4 (小テスト)	第20回	民法改正の歴史 (財産法&家族法)
第5回	借地借家法1—借地借家法の意義、概要	第21回	債権法改正の概要1 (債権総論)
第6回	借地借家法2—借地権借家権の対抗力	第22回	債権法改正の概要2 (債権総論)
第7回	借地借家法3—借地権借家権の存続期間	第23回	債権法改正の概要3 (契約法)
第8回	借地借家法4—特殊な借地借家制度	第24回	債権法改正の概要4 (契約法)
第9回	マンション法1—マンションの権利関係	第25回	個別テーマの研究1 (中間報告)
第10回	マンション法2—マンションの共同管理	第26回	個別テーマの研究2 (中間報告)
第11回	不動産登記法1—不動産登記法の意義、概要	第27回	個別テーマの研究3 (中間報告)
第12回	不動産登記法2—不動産登記のしくみ、効力	第28回	個別テーマの研究4 (最終報告)
第13回	都市計画法1—都市計画法の意義、概要	第29回	個別テーマの研究5 (最終報告)
第14回	都市計画法2—都市計画の決定と実施	第30回	個別テーマの研究6 (最終報告)
第15回	都市計画法3—都市計画法の制限 (利用規制)	第31回	学内ゼミ発表会への参加
第16回	定期試験	第32回	定期試験

	ゼミナール名	ゼミナール III (経営学)		
	ゼミ担当者名	石川 雅敏 (いしかわ まさはる)		
	科目分類	専門科目群		
	開講年次	4年次	開講期間	通年
	開講時限	水曜日 3限	単位数	2単位
	実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 対面のみ <input type="checkbox"/> 遠隔のみ <input type="checkbox"/> 対面・遠隔併用		

ゼミのテーマ	企業をよく研究し、より良い企業へ就職する
ゼミの到達目標	1) 就職内定を得る。 2) 卒業試験に合格する。
ゼミの概要	<p><就職活動> 就職先の候補の選択、就職先の候補に関する情報収集、就職試験の準備、就職試験への対応など就職活動は初めて経験することが多く含まれています。人生における大きなイベントである就職活動を成功させるために具体的な行動計画を作成し、着実に実行しましょう。</p> <p><卒業試験> 経営学の講義及びゼミナールで学んできたことを復習し、その要点を再確認し、自分の言葉で説明できるようにしましょう。</p>
授業時間外の学習	日本経済新聞などの経済紙を日頃から読む習慣をつけましょう。 面接試験への対策として、自分が就職を希望する業界に関する新聞記事に注意して、その業界において注目されている企業、製品、サービスなどについて情報を収集しましょう。
履修条件	就職活動に積極的であること
テキスト	なし
参考文献・資料	なし
成績評価の方法	授業における優れた意見の発出 (20%)、レポート (30%)、定期試験 (50%) 出席回数が規定に満たない場合及び授業料その他納入金等の全額を納めていない場合は、試験を受けることができません。 レポート課題は授業内で指示します。
オフィスアワー	毎週火曜日・木曜日 15:00~17:00 *これ以外の時間帯は必ず事前に予約してください。
成績評価基準	秀(100~90点)、優(89~80点)、良(79~70点)、可(69~60点)、不可(59点以下)
学生へのメッセージ	企業をよく研究し、より良い就職先を見つけましょう。

授業計画			
第1回	イントロダクション	第17回	活動計画の見直し
第2回	就職候補企業の選定	第18回	活動計画の見直し
第3回	就職候補企業の選定	第19回	活動計画の見直し
第4回	就職候補企業の選定	第20回	調査訪問活動
第5回	調査訪問活動	第21回	調査訪問活動
第6回	調査訪問活動	第22回	調査訪問活動
第7回	調査訪問活動	第23回	調査訪問活動
第8回	調査訪問活動	第24回	調査訪問活動
第9回	調査訪問活動	第25回	調査訪問活動
第10回	調査訪問活動	第26回	調査訪問活動
第11回	調査訪問活動	第27回	調査訪問活動
第12回	調査訪問活動	第28回	就職準備活動
第13回	調査訪問活動	第29回	就職準備活動
第14回	調査訪問活動	第30回	就職準備活動
第15回	調査訪問活動	第31回	就職準備活動
第16回	定期試験	第32回	定期試験

	ゼミナール名	ゼミナールⅢ (行動科学)		
	ゼミ担当者名	市原 光匡		
	科目分類	専門科目群		
	開講年次	4年次	開講期間	通年
	開講時限	水曜日 3限	単位数	2単位
	実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 対面のみ <input type="checkbox"/> 遠隔のみ <input type="checkbox"/> 対面・遠隔併用		

ゼミのテーマ	教育学やその基礎となる行動科学の研究手法や社会調査の方法を理解し、その手法を用いて課題研究を行う。
ゼミの到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 教育学やその基盤としての行動科学の研究枠組みをふまえ、個々の能力や適性、興味関心をもとに研究テーマを設定し、それにしたがって研究を行うことができる。 2. 研究の成果を適切にまとめ、発表することができる。
ゼミの概要	行動科学の研究手法を用い、各自が研究課題に取り組む。研究の成果は論文としてまとめる。まず問題関心を明らかにし、テーマを設定、適切な研究方法を選択する。それらは研究計画書にまとめ、報告会で発表する。さらに計画書にしたがい調査など研究活動を行った後、データを分析し得られた知見をまとめ、文章化していく。最終的には執筆した論文を報告会で発表する。
授業時間外の学習	<p>現代の社会問題に関心を向け、自分なりの考えを主張できるようにしておきたい (1.5 時間程度)。 また復習として、授業で取りあげる研究分野ごとにその研究方法や研究の意義などをふまえておくこと (1.5 時間程度)。 なお、夏季休暇中に調査活動を行いデータを採取する予定である。</p>
履修条件	<p>3 年次までに「生涯学習」「地域フィールドワーク」「教育学入門」のいずれかを修得しているもの。 なお、履修を希望するものは、履修登録に先だって担当教員と面談し、履修の許可を得ること。 履修の許可を得ないまま履修登録をしても、単位の修得を認定しない。</p>
テキスト	特に使用しない。
参考文献・資料	<p>秋元律郎・岩永雅也・倉沢進〔編著〕『社会学入門』放送大学教育振興会, 2001. 小川正人・森津太子・山口義枝〔編著〕『心理と教育を学ぶために』放送大学教育振興会, 2012. その他研究過程で必要となる資料・文献については適宜指示する。</p>
成績評価の方法	<p>ゼミナール内での発表・報告 30%、卒業論文 50%、期末試験 20%の割合で評価を行う。 ・出席回数が規定に満たない場合及び授業料その他納入金等の全額を納めていない場合は、試験を受けることができない。</p>
オフィスアワー	毎週火・木曜日 13:00～14:30
成績評価基準	秀 (100～90 点)、優 (89～80 点)、良 (79～70 点)、可 (69～60 点)、不可 (59 点以下)
学生へのメッセージ	<p>学生の参加によって成り立つ授業である。時間と手間はかかるが、興味関心をもって積極的に参加すれば、他の授業では得られない発見や体験もできる。したがってゼミナールの活動には積極的に参加すること。また各回意見交換の機会を設けるので、ゼミナール内でのコミュニケーションを深め、他者と協働しながら学習をすすめていくこと。 なお、事前連絡なしの欠席、遅刻は一切認めない。</p>

授業計画			
第1回	ガイダンス	第17回	ガイダンス
第2回	研究の成立する要件	第18回	研究の成立する要件
第3回	問題意識の明確化	第19回	問題意識の明確化
第4回	研究テーマの設定	第20回	研究テーマの設定
第5回	研究テーマの報告会① (第1グループ)	第21回	研究テーマの報告会① (第1グループ)
第6回	研究テーマの報告会② (第2グループ)	第22回	研究テーマの報告会② (第2グループ)
第7回	研究計画の策定① (仮説の設定)	第23回	研究計画の策定① (仮説の設定)
第8回	研究計画の策定② (研究方法の選択)	第24回	研究計画の策定② (研究方法の選択)
第9回	研究計画の策定③ (先行研究)	第25回	研究計画の策定③ (先行研究)
第10回	研究計画の策定④ (計画の適切性)	第26回	研究計画の策定④ (計画の適切性)
第11回	研究計画の報告会① (第1グループ)	第27回	研究計画の報告会① (第1グループ)
第12回	研究計画の報告会② (第2グループ)	第28回	研究計画の報告会② (第2グループ)
第13回	研究計画書の作成	第29回	研究計画書の作成
第14回	研究のマナー	第30回	研究のマナー
第15回	事前調査の実施	第31回	事前調査の実施
第16回	定期試験	第32回	定期試験

	ゼミナール名	ゼミナールⅢ（観光学）		
	ゼミ担当者名	井上 寛		
	科目分類	専門科目群		
	開講年次	4年次	開講期間	通年
	開講時限	金曜日2時限	単位数	2単位
	実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 対面のみ <input type="checkbox"/> 遠隔のみ <input type="checkbox"/> 対面・遠隔併用		

ゼミのテーマ	卒業後の進路に応用するための観光学
ゼミの到達目標	観光学を卒業後に「観光のプロフェッショナル」として応用する方法を理解し、「観光とは何か」を自分の言葉で説明できるようになる。
ゼミの概要	<p>「観光学」は、実は面白くて役に立つ学問です。その「観光学」を実践的かつ深く学ぶことがこのゼミナールにおける1年間のミッションです。</p> <p>4年生にとって最初に重要なのは、希望する就職先から内定を取ること、そして卒業後の職業に役立つ実力をつけることです。そこで、ゼミナールⅢ(観光学)は、各自の興味・関心をもとに、メンバーで議論したうえで、卒業後の進路に応用するためのさまざまなツーリズムの研究を1年かけて行います。前にも述べたように、観光学は実践的な学問ですので、自分から「アクション」することを重視したいと思います。ゼミ時間外に活動することもあります。積極的に参加する意欲のある学生の参加を期待します。</p>
授業時間外の学習	ゼミ課題に対し主体的かつ真剣に取り組むこと。
履修条件	<ol style="list-style-type: none"> 1. これまでに観光論入門Ⅰの単位を履修していること、または今年度履修すること。 2. 卒業後を見据えて学ぶ意欲があること。 3. ゼミ行事に主体的に参加する意欲があること。 4. 無断欠席などネガティブな言動をしないこと。
テキスト	山下晋司編『観光学キーワード』有斐閣、2011年(観光論入門Ⅰで使用したテキスト)
参考文献・資料	ゼミナールの時間に適宜指示します。
成績評価の方法	定期試験(30%)・行事への参加(20%)・提出物(20%)・平常点(30%) 出席回数が規定に満たない場合及び授業料その他納入金等の全額を納めていない場合は、試験を受けることが出来ません。
オフィスアワー	毎週月曜日1時限(9:00~10:30) 毎週金曜日3時限(13:00~14:30)
成績評価基準	秀(100~90点)、優(89~80点)、良(79~70点)、可(69~60点)、不可(59点以下)
学生へのメッセージ	<p>ゼミ担当の井上寛は、学生時代「障害者・高齢者の旅行」という研究テーマに出会い、これまで一貫して観光を学び続けています。</p> <p>観光学はとにかく「実践」することが重要ですが、そのベースとなる社会科学を深く学ぶことも重要です。みなさんの今後の人生の中で、「私は大学で実践的に観光学を学んだ!」と堂々と語れるように、学生時代より観光学を学んできた先輩として、一緒に学び続けていきたいと思えます。その「実践」のためには、観光学ゼミナールでは、課題や研究に関して、自分たちで考え企画し、実践することを重視します。そして、高杉祭をはじめ旅行やコンパなどのゼミ行事も、受け身ではなく積極的に参加し一緒に楽しむことのできる学生の履修を希望します。</p>

授業計画			
第1回	前期オリエンテーション	第16回	後期オリエンテーション
第2回	未来の目標を語ろう	第17回	研究課題中間報告Ⅰ
第3回	観光学の復習1	第18回	研究課題中間報告Ⅱ
第4回	観光学の復習2	第19回	観光学の学術研究2-1
第5回	観光学の復習3	第20回	観光学の学術研究2-2
第6回	研究課題ディスカッション1-1	第21回	観光学の学術研究2-3
第7回	研究課題ディスカッション1-2	第22回	観光学の学術研究2-4
第8回	研究課題ディスカッション1-3	第23回	ふりかえりⅢ
第9回	研究課題ディスカッション1-4	第24回	研究課題ディスカッション2-1
第10回	ふりかえりⅠ	第25回	研究課題ディスカッション2-2
第11回	観光学の学術研究1-1	第26回	研究課題ディスカッション2-3
第12回	観光学の学術研究1-2	第27回	研究課題ディスカッション2-4
第13回	観光学の学術研究1-3	第28回	研究発表Ⅰ
第14回	観光学の学術研究1-4	第29回	研究発表Ⅱ
第15回	ふりかえりⅡ・反省会	第30回	ふりかえりⅢ・反省会
		第31回	後期試験

	ゼミナール名	ゼミナールⅢ(刑事法)		
	ゼミ担当者名	岡崎 頌平		
	科目分類	専門科目群		
	開講年次	4年次	開講期間	通年
	開講時限	水曜日3限	単位数	2単位
	実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 対面のみ <input type="checkbox"/> 遠隔のみ <input type="checkbox"/> 対面・遠隔併用		

ゼミのテーマ	刑事法の重要問題を研究する
ゼミの到達目標	本ゼミナールでは、ゼミナールⅡで完成させたゼミレポートを発展させて、ゼミ論文としてまとめあげてもらいます(成績評価の方法を確認すること)。ただ、3年後期に開講される刑事政策を履修して、刑事政策や少年司法に関心をもった学生が出てくることは十分に想定されますので、必ずしもゼミレポートで選択したテーマでのゼミ論文完成に拘束されることはないと思います。しかしながら、その場合には、これまで学んできたことをしっかりと活かして、完成までのロードマップを早めに作りあげることが重要になります。
ゼミの概要	他者の批判に耐えうる質・量を備えたゼミ論文の完成
授業時間外の学習	<ul style="list-style-type: none"> ・ゼミ論文完成に向けた準備をすること。(240分) ・計画的に執筆を進めること。
履修条件	刑法入門・法律学研究・刑法総論・刑法各論・刑事訴訟法・刑事政策の単位を修得済みであること。 なお、上記した条件は必要条件であるから、これらの条件を充たさない者は履修を認めない。
テキスト	受講者が使用している基本書など
参考文献・資料	中山研一ほか『レヴィジオン刑法1・2・3』成文堂(1997・2002・2009)；山口厚『問題探究 刑法総論・刑法各論』有斐閣(1998・1999)；山口厚ほか『理論刑法学の最前線Ⅰ・Ⅱ』岩波書店(2001・2006)；西田典之ほか『注釈刑法 第1・2巻』有斐閣(2010・2016)；川端博ほか『理論刑法学の探究①～⑩』成文堂(2008～2017年)；佐伯仁志ほか『刑事法の理論と実務①～②』成文堂(2019～2020年)；伊東研祐ほか『リーディングス刑法』法律文化社(2015)；川崎英明ほか『リーディングス刑事訴訟法』法律文化社(2016)；朴元奎ほか『リーディングス刑事政策』法律文化社(2016)
成績評価の方法	ゼミ論文50%、授業への参加状況(報告・質疑応答など)30%、定期試験20% ※ゼミ論文については、1枚あたり40字×30行の用紙設定(A4サイズ)で最低10枚以上のものの提出を求める予定です。また、公開の場での報告会を予定しています。 ※出席回数が規定に満たない場合及び授業料その他納入金等の全額を納めていない場合は、試験を受けることが出来ません。
オフィスアワー	月曜1・2限
成績評価基準	秀(100～90点)、優(89～80点)、良(79～70点)、可(69～60点)、不可(59点以下)
学生へのメッセージ	この授業は、単一方向のものではなく、双方向のものになりますので、積極的な参加(発言)を期待しています。また、これも当然のことを述べることになりますが、欠席・遅刻をする場合には必ず連絡するようにしてください。無断欠席等は厳禁です(なお、無断欠席等があった場合、その事情によっては、それ以降の履修を認めません)。

授業計画			
第1回	イントロダクション	第17回	第3回報告①
第2回	第1回報告①	第18回	第3回報告②
第3回	第1回報告②	第19回	第3回報告③
第4回	第1回報告③	第20回	第3回報告④
第5回	第1回報告④	第21回	第3回報告⑤
第6回	第1回報告⑤	第22回	第3回報告⑥
第7回	第1回報告⑥	第23回	まとめ③
第8回	まとめ①	第24回	第4回報告①
第9回	第2回報告①	第25回	第4回報告②
第10回	第2回報告②	第26回	第4回報告③
第11回	第2回報告③	第27回	第4回報告④
第12回	第2回報告④	第28回	第4回報告⑤
第13回	第2回報告⑤	第29回	第4回報告⑥
第14回	第2回報告⑥	第30回	まとめ④
第15回	まとめ②	第31回	全体のまとめ
第16回	定期試験	第32回	定期試験

	ゼミナール名	ゼミナールⅢ(財務会計)		
	ゼミ担当者名	國井法夫		
	科目分類	専門科目群		
	開講年次	4年次	開講期間	通年
	開講時限	水曜日3限	単位数	2単位
	実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 対面のみ <input type="checkbox"/> 遠隔のみ <input type="checkbox"/> 対面・遠隔併用		

ゼミのテーマ	日商簿記3級・日商簿記2級資格を取得する・簿記の歴史を学ぶ。IFRS会計を学ぶ。
ゼミの到達目標	①日商簿記2・3級資格を取得できていない学生はこれまでの継続 ②各学生の目標により勉強する
ゼミの概要	簿記・会計(国際会計を含む)の歴史を共に学ぶ。
授業時間外の学習	ゼミとは別に週1回個別に私の研究室で問題演習をやる。
履修条件	ゼミを欠席しないこと。
テキスト	田中靖浩著『会計の世界史』日本経済新聞社 2,420円
参考文献・資料	
成績評価の方法	授業態度・出席状況・検定試験の合否・自分の目標を持っているかどうかを見て評価する。 出席回数が規定に満たない場合及び授業料その他納入金等の全額を納めていない場合は、試験を受けることが出来ません。
オフィスアワー	水曜日5時間目
成績評価基準	授業態度70%・検定試験の合否30% 秀(100~90点)、優(89~80点)、良(79~70点)、可(69~60点)、不可(59点以下)
学生へのメッセージ	近年、楽な方に楽な方に流れる学生が多い。積極的に目標に向かって努力する人を希望します。

授業計画			
第1回	面接	第17回	19世紀アメリカ—管理会計とファイナンス① 南北戦争と大陸横断鉄道
第2回	15世紀イタリア① 銀行革命 地中海でのリズカーレとそれを助けるバンコ	第18回	19世紀アメリカ—管理会計とファイナンス② 大量生産と原価計算
第3回	15世紀イタリア② 銀行革命 イタリア黄金期を支えたバンコと簿記	第19回	19世紀アメリカ—管理会計とファイナンス③ 巨大化する企業
第4回	15世紀イタリア① 簿記革命 レオナルドと簿記の父との運命的な出会い	第20回	19世紀アメリカ—管理会計とファイナンス④ 南部から北部へ コカ・コーラとジャズ
第5回	15世紀イタリア② 簿記革命 公証人を頼らず自ら記録を始めた商人	第21回	20世紀アメリカ—管理革命① シカゴから始まったジャズと管理会計の歴史
第6回	17世紀オランダ① 会社革命 神から人間中心の世界へ	第22回	20世紀アメリカ—管理革命② セグメント情報
第7回	17世紀オランダ② 会社革命 オランダで誕生した株式会社	第23回	20世紀アメリカ—管理革命③ デュボンの管理会計革命
第8回	財務会計の歴史① 19世紀イギリス利益革命 蒸気機関車	第24回	20世紀アメリカ—管理革命④ クロスオーバーが始まった音楽と会計
第9回	財務会計の歴史② 鉄道狂時代	第25回	21世紀アメリカ—価値革命① マイケルジャクソンに学ぶ価値
第10回	財務会計の歴史③ 19世紀の鉄道会社から始まった利益	第26回	21世紀アメリカ—価値革命② 企業価値とは
第11回	20世紀アメリカ 投資家革命① 新大陸への移民と投資マネー	第27回	21世紀アメリカ—価値革命③ 投資銀行とファンドを支えたファイナンス
第12回	20世紀アメリカ 投資家革命② 崩壊前夜のニューヨーク	第28回	21世紀アメリカ—価値革命④ うつろいやすい価値を求めさまよう私たち
第13回	20世紀アメリカ 投資家革命③ SEC 初代長官は大悪党だった	第29回	I F R S財務会計 I F R S会計とは？ I F R S会計の見方と考え方
第14回	20世紀アメリカ 投資家革命④ パブリックとプライベート	第30回	I F R S財務諸表の考え方 財政状態計算書と包括利益計算書の関係
第15回	21世紀国際革命 自動車の生産・国際会計基準	第31回	財政状態計算書の構成要素と作成 包括利益計算書の構成要素と作成
第16回	定期試験	第32回	定期試験

	ゼミナール名	ゼミナールⅢ（安全保障論）		
	ゼミ担当者名	佐藤 克枝		
	科目分類	専門科目群		
	開講年次	4年次	開講期間	通年
	開講時限	水曜日3限	単位数	2単位
	実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 対面のみ <input type="checkbox"/> 遠隔のみ <input type="checkbox"/> 対面・遠隔併用		

ゼミのテーマ	安全保障の重要問題を研究する。
ゼミの到達目標	<p>この授業の単位を修得した場合、次のような知識・能力を習得できます。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 国家の成立要件（住民・領土・政府・外交能力）を説明できる。 2 領域及び日本の領土問題の概要を説明できる。 3 防衛政策の基本（専守防衛）、日米安全保障体制が説明できる。 4 国家安全保障戦略、事態対処法制、平和安全法制の概要を説明できる。 5 国連の集団安全保障体制と集団的自衛権の差異を説明できる。 6 武力攻撃事態への対処のための法律の概要を説明できる。 7 国民保護についての国や自治体の取り組みについて説明できる。 8 国際人道法について概要を理解している。 9 安全保障政策について自己の意見を述べるができる。
ゼミの概要	<p>日本の安全保障について 国際環境と国内政治がどのようにかかわってきたのかにも着目しつつ学んでいきます。</p> <p>世界の各国は独自の安全保障政策や、安全保障組織により、自国の主権と独立を確保しています。現在の国際情勢、とりわけ軍事情勢は厳しい状況にあります。そのような中で、各国はそれぞれの防衛努力により、周辺諸国と連携するとともに、国連の集団的安全保障体制の下で平和と安全を維持しているところです。</p> <p>当初はゼミナールⅠ及びⅡのふりかえりも入れつつ、安全保障体制についてまとめを行います。後半は、各自が興味を持ったテーマについてゼミ論文をまとめます。</p>
授業時間外の学習	<ul style="list-style-type: none"> ・日本の安全保障政策に関するニュースに関心を持つこと。 ・国際的な軍事情勢、国際テロ、日本周辺の情勢に関心を持ち、国連や当事国の対処状況に関心を持つこと。 <p>（予習 2時間程度、復習 2時間程度）</p>
履修条件	<ol style="list-style-type: none"> 1 次の①～③の条件をすべて満たすこと。 <ol style="list-style-type: none"> ①安全保障論、国際関係論、統治機構、行政学Ⅰ・Ⅱいずれかの単位を修得済みであること。 ②1回目又は2回目のゼミナールに出席し、安全保障に関する関心事項についてペーパーを提出すること（フォーマットは出席時に配布する。）。 ③履修登録にあたっては、担当教員と面接の上、履修許可を得ること。 2 安全保障論ゼミナールⅡの単位を修得済みであることが望ましい。 3 ゼミナール内での討議に参加すること。発言できない学生の参加は認めない。
テキスト	授業中に指示する。
参考文献・資料	<p>防衛白書（令和元年版）、外交青書（令和元年版）、田村重信等『日本の防衛法制』（内外出版）、同『日本の防衛政策』（内外出版）、森本敏『日本の安全保障』（実務教育出版）、武田康裕『安全保障のポイントがよくわかる本』（亜紀書房）、西原正『わかる平和安全法制』（朝日新聞社）、武田康裕ほか『新訂第5版 安全保障学入門』（亜紀書房）、渡邊隆『平和のための安全保障論 軍事力の役割と限界を知る』（かもがわ出版）、田村重信・さとう正久編著『教科書 日本の防衛政策』芙蓉書房出版、松本利秋『逆さ地図で解き明かす新世界情勢』（ウエッジ）</p>

成績評価の方法	授業への参加状況（報告・質疑応答など）50%、卒業論文50% ・出席回数が規定に満たない場合及び授業料その他納入金等の全額を納めていない場合は、試験を受けることができません。
オフィスアワー	火曜日14:40～16:10・水曜日14:40～16:10
成績評価基準	秀(100～90点)、優(89～80点)、良(79～70点)、可(69～60点)、不可(59点以下)
学生へのメッセージ	国際関係や国家としての安全保障のあり方、国民保護等に興味のある学生の積極的な参加を期待しています。ゼミ論文のテーマを定め、研究及び発表に入ることができるようにするため、安全保障論の体系的な学習と平行して、毎回安全保障に関するトピックについて討議します。後期では、実際に安全保障に携わる防衛省及び国民保護計画策定の中心となる自治体の関係者をゲストスピーカーとして招聘して特別講義をして頂き、安全保障について、さらに理解を深めてもらう予定です。

授業計画			
第1回	ガイダンス 安全保障のまとめ（ゼミナールⅠ・Ⅱのふりかえり）	第17回	論文作成準備 テーマの確認・研究の方向性
第2回	今日の国際関係①（概観）	第18回	文献検索・中間指導（グループ1）
第3回	今日の国際関係②（地域ごと）	第19回	文献検索・中間指導（グループ2）
第4回	防衛政策①（ゼミナールⅠ・Ⅱのふりかえり）	第20回	文献検索・中間指導（グループ3）
第5回	防衛政策②（テーマの抽出・討論①）	第21回	中間報告（グループ1）
第6回	防衛政策③（討論②）	第22回	中間報告（グループ2）
第7回	国民保護政策①（概観）	第23回	中間報告（グループ3）
第8回	国民保護政策②（討論）	第24回	個別指導①
第9回	国際人道法①（ジュネーブ条約概観）	第25回	個別指導②
第10回	国際人道法②（文民条約）	第26回	卒業論文ゼミナール発表（グループ1）
第11回	国際人道法③（捕虜条約）	第27回	卒業論文ゼミナール発表（グループ2）
第12回	国際連合の役割	第28回	卒業論文ゼミナール発表（グループ3）
第13回	紛争の平和的解決手段（討議）	第29回	特別講義①（ゲストスピーカー）
第14回	平和安全法制①（概観）	第30回	特別講義②（ゲストスピーカー）
第15回	平和安全法制②（我が国の平和協力の在り方）	第31回	全体のまとめ
第16回	前期のまとめ		定期試験

	ゼミナール名	ゼミナールⅢ（民法）		
	ゼミ担当者名	高橋佑輔		
	科目分類	専門科目群		
	開講年次	4年次	開講期間	通年
	開講時限	木曜日4限	単位数	2単位
	実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 対面のみ <input type="checkbox"/> 遠隔のみ <input type="checkbox"/> 対面・遠隔併用		

ゼミのテーマ	民法の知識を修得するとともに、具体的な問題の解決策を考える能力を育む。
ゼミの到達目標	民法の基礎知識を修得し、問題を検討し解決するための方策を考えることができる。 公務員試験等で問われる民法の知識を確実に身に付ける。
ゼミの概要	<p>判例等の事例を題材として、報告担当者の発表をベースに事例研究を行い、また、関連する法分野の知識の確認を行う。報告担当者以外の参加者にも発言を求め（指名する）、担当教員との対話方式でゼミナールを進行する。</p> <p>ゼミナールⅢ（4年次）は、3年次までに修得した民法知識を確認しつつ、民法知識を前提とした問題解決策等を各履修者が自ら考える力を養うことを目標とする。</p> <p>本ゼミナールでは、民法知識の確認のため毎回のゼミナール冒頭にミニテストを実施する他、定期的に知識確認テストを実施します。</p> <p>履修人数により異なりますが、履修者全員が少なくとも年2回以上（通常4回程度）ゼミナール内で発表を担当することになります。また、原則として発表準備はゼミナール時間外に行ってもらいます（発表内容等に関する教員への相談は歓迎します）。</p>
授業時間外の学習	ゼミナールで扱った範囲について、問題演習等を通じて復習すること（1.5時間）。 報告担当者は、報告において引用する資料等も確認して報告準備を行うこと。
履修条件	民法総則、物権法、債権総論、債権各論、親族・相続の各科目について履修した者と同程度の民法知識があること。
テキスト	履修者と相談して指定する。
参考文献・資料	適宜指示する。
成績評価の方法	ゼミナール内での報告（75%）と試験結果（25%）に出席状況、学習到達度確認テスト結果等を加味して評価する。 出席回数が規定に満たない場合及び授業料その他納入金等の全額を納めていない場合は、試験を受けることが出来ません。
オフィスアワー	月曜日13:00～14:30・木曜日13:00～14:30
成績評価基準	秀（100～90点）、優（89～80点）、良（79～70点）、可（69～60点）、不可（50点以下）
学生へのメッセージ	民法を学ぶ意欲のある学生の参加を歓迎します。参加希望者は毎回判例集と六法、民法のテキストを手元に準備することが必須です。 毎回の出席は当然ですので、理由なく欠席した場合にはレポート等の提出を求めます。 原則として就職活動を理由とする欠席は認めません。複数回開催される企業説明会等は本ゼミナールと重複しない開催日に参加してください。個別面接等でやむを得ず欠席する場合には、事前に担当教員に相談してください。

授業計画			
第1回	ガイダンス	第17回	学習状況の確認・事例検討
第2回	事例検討	第18回	事例検討
第3回	事例検討	第19回	事例検討
第4回	発表準備・調査（図書館での判例DB検索など）	第20回	学習到達度確認テスト⑤ 発表準備・調査・面談
第5回	学習到達度確認テスト① 発表準備・調査・面談（発表準備状況確認）	第21回	発表準備・調査・面談
第6回	事例検討	第22回	事例検討
第7回	発表・事例検討	第23回	発表・事例検討
第8回	発表・事例検討	第24回	学習到達度確認テスト⑥ 発表・事例検討
第9回	学習到達度確認テスト② 発表・事例検討	第25回	発表・事例検討
第10回	発表・事例検討	第26回	発表・事例検討
第11回	発表・事例検討	第27回	発表・事例検討
第12回	発表・事例検討	第28回	学習到達度確認テスト⑦ 発表・事例検討
第13回	学習到達度確認テスト③ 発表・事例検討	第29回	発表・事例検討
第14回	事例検討	第30回	事例検討
第15回	前期のまとめ	第31回	後期のまとめ
第16回	定期試験	第32回	定期試験

	ゼミナール名	ゼミナールⅢ (心理学)		
	ゼミ担当者名	瀧澤 純 (たきざわ じゅん)		
	科目分類	専門科目群		
	開講年次	4年次	開講期間	通年
	開講時限	水曜日3限	単位数	2単位
	実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 対面のみ <input type="checkbox"/> 遠隔のみ <input type="checkbox"/> 対面・遠隔併用		

ゼミのテーマ	心理学に関する知見を生み出す。
ゼミの到達目標	4年生のゼミでは心に関する研究案を考え、研究を実施し、研究内容を発信できるようになることを目標とする。社会・人間・動物について温かく想いやる視点と、冷静に分析する視点を両立させてほしい。
ゼミの概要	<p>心理学の視点や方法を用いて検証し、発信するゼミである。ゼミでは「簡単に調べただけでは答えが出せない問題」に取り組む。ゼミでの活動により、所属する学科の学びにも、試験勉強にも、就職活動にも、公務員試験にも、その後の人生にも活かすことを目指す。</p> <p>1年を通して、卒業研究のテーマ決め、計画・実施、データの分析、5000字以上の卒業論文の提出(11月末)、卒業研究発表会での発表(12月下旬)、学生論文コンクールへの提出(1月中旬)を行う。</p>
授業時間外の学習	<p>ゼミの時間外で、グループでの話し合い、資料の検索、実験の考案・調査用紙の作成、実験や調査への協力の呼び掛け、データ入力、データ分析、レポートや論文作成、発表用スライドの作成などに取り組む必要がある(週2.0時間程度)。</p> <p>さらに、毎週のゼミ前には指定された資料を読み(週1.0時間程度)、ゼミ後には復習を行うことを求める(週1.0時間程度)。</p>
履修条件	<p>前年度に、瀧澤が担当したゼミの単位を取得していることが必要である。そうでない場合は、以下の①と②の両方を満たさなければ、このゼミを履修できない。</p> <p>①ゼミを履修する時点で「心と行動Ⅰ、心と行動Ⅱ、統計学、人間行動学、犯罪心理学、社会調査の仕方、スポーツ心理学、社会心理学の8科目」から3科目以上の単位が取得済みであること</p> <p>②ゼミ第3回開始までに教員との面談に合格し、受講の許可を得ること</p>
テキスト	使用しない。学生自身が、取り組むテーマに応じて資料を探す必要がある。
参考文献・資料	松井豊『心理学論文の書き方 卒業論文や修士論文を書くために』(河出書房新社, 2010年)
成績評価の方法	行事への参加と取り組み姿勢20%、提出物と発表60%、定期試験20%の割合で評価する。出席回数が規定に満たない場合及び授業料その他納入金等の全額を納めていない場合は、試験を受けることが出来ません。
オフィスアワー	月曜日の3時限(13:00から14:30)、金曜日の2時限(10:40から12:10)とする。
成績評価基準	100~90点を秀、89~80点を優、79~70点を良、69~60点を可、59点以下を不可とする。
学生へのメッセージ	積極的な参加が求められるゼミです。学年合同の懇親会、球技大会、大学祭、ゼミ旅行、各学年の発表会など、学年やゼミを越えて人と関わる中で、人を想うことができる人になってください。心理学による検証を行い、検証結果を発信する中で、人への思慮深さを身につけてください。

授業計画			
第1回	ガイダンス：教員の研究紹介①	第17回	卒業論文の作成③：文章の書き方
第2回	心理学の概要：よい研究とは、教員の研究紹介②	第18回	卒業論文の作成④：詳細に、簡潔に
第3回	テーマ決め：資料検索、連絡グループ作成	第19回	卒業論文の作成⑤：図表の作成
第4回	研究案の具体化①：課題設定、仮説と結果予想	第20回	中間報告会③：前半組
第5回	研究案の具体化②：実験手続きの具体化	第21回	中間報告会④：後半組
第6回	研究案の具体化③：質問紙の作成	第22回	卒業論文の修正①：研究の目的
第7回	研究案の改善①：仮説との関連	第23回	卒業論文の修正②：引用の方法
第8回	研究案の改善②：測定方法の利点と欠点、工夫	第24回	卒業論文の修正③：資料の添付
第9回	研究案の改善③：リハーサル的重要性	第25回	卒業論文の最終提出
第10回	研究の実施①：研究の倫理	第26回	卒業論文の修正④：校正
第11回	研究の実施②：データ入力、統計的検定	第27回	発表会の準備①：発表のルール
第12回	中間報告会①：前半組	第28回	発表会の準備②：発表資料
第13回	中間報告会②：後半組	第29回	発表会の準備③：リハーサル前半組
第14回	卒業論文の作成①：構成と見出し	第30回	発表会の準備④：リハーサル後半組
第15回	卒業論文の作成②：仮提出に向けて	第31回	卒業研究発表会での発表
第16回	定期試験	第32回	定期試験

	ゼミナール名	ゼミナールⅢ (情報システム管理論)		
	ゼミ担当者名	瀧森 威		
	科目分類	専門科目群		
	開講年次	4年次	開講期間	通年
	開講時限	水曜日3限	単位数	2単位
	実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 対面のみ <input type="checkbox"/> 遠隔のみ <input type="checkbox"/> 対面・遠隔併用		

ゼミのテーマ	最新の情報・IT技術を通して、その分野の基本的な資質を磨きます。
ゼミの到達目標	社会人としての自覚・良識・思考を身に付ける。情報リテラシー能力を身に付ける。
ゼミの概要	<p>このゼミの単位を修得した場合、次のような知識・能力を修得できます。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 社会人としての自覚・良識・思考を身に付ける。 2. 調査・研究・発表を通して、コミュニケーション能力、プレゼンテーション能力、報告書作成能力が身に付く。 3. 情報リテラシー能力、情報処理技術の基本が身に付く。
授業時間外の学習	<p>情報やITの技術動向に対して絶えず関心を持って調査研究する。</p> <p>多くのソフトウェアを使いこなす。</p>
履修条件	コンピュータ入門やコンピュータ利用技術Ⅰ、情報システム管理論ゼミナールⅠ・Ⅱを修得している学生が望ましい。
テキスト	情報やIT関連に関するプリント、資格取得のためのプリント
参考文献・資料	講義中に適宜紹介します。ITパスポート関連、日商PC検定関連、MS検定関連資料。
成績評価の方法	<p>講義中に実施する実践的課題 20% (知識問題・実技問題・レポート)、個人調査研究 40%、試験 40%により判断します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・出席回数が規定に満たない場合及び授業料その他納入金等の全額を納めていない場合は、試験を受けることができません。 ・出席確認時不在だった場合は原則としてその回は欠席とします。 ・授業中に無許可で退出した場合は欠席とします。 ・課題は必ず提出することが前提で、授業内又は掲示板で指示します。
オフィスアワー	<p>毎週 金曜日 10:40～12:10</p> <p>これ以外の時間帯は必ず事前に予約してください。</p>
成績評価基準	秀 (100～90点)、優 (89～80点)、良 (79～70点)、可 (69～60点)、不可 (59点以下)
学生へのメッセージ	<p>情報 (プログラム開発等) やIT関連の仕事に就きたい人にはお勧めです。</p> <p>大きな仕事をやりとげた人達からの教え等、学生たちがこれからの進路や人生をどのように歩んでいくべきか、今一度学生の皆さんと一緒に考えましょう。また、情報やIT関連資格取得を目標にしましょう。</p>

授業計画			
第1回	ゼミナールの概論	第17回	基本情報処理技術者試験 プログラミング科目対策問題1と解説 個人各テーマ改善・改良
第2回	最新情報・IT技術、秋田県諸問題のための調査 研究概要（個人テーマ決め）	第18回	基本情報処理技術者試験 プログラミング科目対策問題2と解説 個人各テーマ改善・改良
第3回	個人テーマ概要作成、テーマ確定	第19回	基本情報処理技術者試験 プログラミング科目対策問題3と解説 個人各テーマ本番発表準備
第4回	情報処理技術の応用実践的知識の習得① （情報セキュリティ管理と技術、資産とリスク） 個人各テーマ調査・研究	第20回	基本情報処理技術者試験 プログラミング科目対策問題4と解説 個人各テーマ本番発表準備
第5回	情報処理技術の応用実践的知識の習得② （情報セキュリティに関する知識問題確認） 個人各テーマ調査・研究	第21回	基本情報処理技術者試験 プログラミング科目対策問題5と解説 個人各テーマ本番発表準備
第6回	情報処理技術の応用実践的知識の習得③ （システム開発概要、ソフトウェア開発手法） 個人各テーマ調査・研究	第22回	ゼミ内各研究発表会
第7回	情報処理技術の応用実践的知識の習得④ （ITに関わるマネジメント） 個人各テーマ調査・研究	第23回	ゼミ内各研究発表会
第8回	情報処理技術の応用実践的知識の習得⑤ （ITに関わるマネジメントの知識問題確認） 個人各テーマ調査・研究	第24回	情報・IT技術、秋田県の諸問題等 各論文作成
第9回	情報処理技術の応用実践的知識の習得⑥ （ITに関わるマネジメントの知識問題確認） 個人各テーマ中間発表準備	第25回	情報・IT技術、秋田県の諸問題等 各論文作成
第10回	ITパスポート関連知識問題確認 個人各テーマ中間発表準備	第26回	情報・IT技術、秋田県の諸問題等 各論文作成
第11回	日商PC検定実技試験（文書作成）模擬試験 個人各テーマ中間発表準備	第27回	情報・IT技術、秋田県の諸問題等 各論文作成
第12回	日商PC検定実技試験（データ活用）模擬試験 個人各テーマ中間発表準備	第28回	情報・IT技術、秋田県の諸問題等 各論文提出・指導
第13回	日商PC検定実技試験（サイト作成）模擬試験 個人各テーマ中間発表準備	第29回	情報・IT技術、秋田県の諸問題等 各論文提出・指導
第14回	ゼミ内各研究中間発表会	第30回	情報・IT技術、秋田県の諸問題等 各論文提出・指導
第15回	ゼミ内各研究中間発表会	第31回	1年間の総括
第16回	前期定期試験	第32回	後期定期試験

	ゼミナール名	ゼミナールⅢ (政治学・行政学ゼミナール)		
	ゼミ担当者名	中村 逸春		
	科目分類	専門科目群		
	開講年次	4年次	開講期間	通年
	開講時限	水曜日3限	単位数	2単位
	実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 対面のみ <input type="checkbox"/> 遠隔のみ <input type="checkbox"/> 対面・遠隔併用		

ゼミのテーマ	社会とは何か？ 社会と個人との関係はどうあるべきか？ 私のゼミナールでは、こうした問いについて、政治学や行政学の文献を読み議論することを通じて、一緒に考えていければと思っています。
ゼミの到達目標	政治学や行政学の文献を読解する力と、他のゼミ生と議論する力を習得すること。社会科学的な思考を身につけること。ゼミ論文を執筆するための能力を涵養すること。
ゼミの概要	<p>①前期は、政治学や行政学について幅広く学ぶため、水島治郎『ポピュリズムとは何か：民主主義の敵か、改革の希望か』と、湯浅誠『反貧困：「すべり台社会」からの脱出』（あるいは、田中拓道『福祉政治史』）をテキストとする予定です（参加者の希望も聞く予定）。毎回、指定された箇所を事前に読んできて、当日は全員で議論するという形でゼミを進めます。なお、テキストは専門書ではなく、一般読者向けの新書ですので、比較的読みやすいと思います。</p> <p>②後期には、ゼミ論文の作成と、政治学分野の文献の講読を行う予定です。ただし、もし参加者から要望があれば、山本昭宏『戦後民主主義：現代日本を創った思想と文化』を数回読むことも考えます。なお、後期の文献は配布します。</p>
授業時間外の学習	テキストを読んで分からないことがあれば、事前に図書館やウェブ情報を通じて調べておくこと（2.0時間程度）。新聞などに日々目を通しておくこと（2.0時間程度）。
履修条件	特にありません。ただし、ガイダンスに出席できない（できなかった）場合は、第3回目の授業日の前までに、7階の研究室に一度お越しください。
テキスト	水島治郎『ポピュリズムとは何か：民主主義の敵か、改革の希望か』中公新書（820円）。湯浅誠『反貧困：「すべり台社会」からの脱出』岩波新書（740円）。
参考文献・資料	山本昭宏『戦後民主主義：現代日本を創った思想と文化』中公新書（920円）。田中拓道『福祉政治史：格差に抗するデモクラシー』勁草書房、2017年。
成績評価の方法	発言や報告などの取り組み姿勢（60%）、レポートまたは試験（40%）によって評価する。出席回数が規定に満たない場合及び授業料その他納入金等の全額を納めていない場合は、試験を受けることが出来ません。
オフィスアワー	木曜・金曜 14:00～15:30
成績評価基準	秀(100～90点)、優(89～80点)、良(79～70点)、可(69～60点)、不可(59点以下)
学生へのメッセージ	<p>(1) ゼミの内容に関心を持たれた方は、気軽に7階の研究室にお越しください。</p> <p>(2) 政治に強い関心がなくても、特に問題はありません。政治とは何か、学問とは何なのか、一緒にゼミで考えましょう！</p> <p>(3) 大人数にはならないと思いますので、5～6名ほどの少人数が好みの人にはお勧めです。</p> <p>(4) 発表会は法律学科のものに参加しますが、国際観光学科や経済学部の学生も歓迎します。</p>

授業計画			
第1回	第1回ガイダンス	第17回	後期の活動についての説明、個別面談
第2回	第2回ガイダンス	第18回	抑圧の論理② ーヨーロッパ極右政党の変貌 (『ポピュリズムとは何か』)
第3回	文献検索の方法、ゼミ内の役割分担	第19回	リベラルゆえの「反イスラム」 ー環境・福祉先進国の葛藤 (『ポピュリズムとは何か』)
第4回	すべり台社会・日本① ー三層のセーフティネット (『反貧困』)	第20回	国民投票のパラドクス ースイスは「理想の国」か (『ポピュリズムとは何か』)
第5回	すべり台社会・日本② ー皺寄せを受ける人々 (『反貧困』)	第21回	グローバル化するポピュリズム① (『ポピュリズムとは何か』)
第6回	貧困は自己責任なのか① ー五重の排除、自己責任論批判 (『反貧困』)	第22回	グローバル化するポピュリズム② (『ポピュリズムとは何か』)
第7回	貧困は自己責任なのか② ー見えない“溜め”を見る、貧困問題をスタートラインに (『反貧困』)	第23回	ゼミ論文についての説明、個別面談
第8回	「すべり台社会」に歯止めを ー「市民活動」「社会領域」の復権を目指す、起点としての〈もやい〉 (『反貧困』)	第24回	政治学・行政学文献講読
第9回	つながり始めた「反貧困」 ー「貧困ビジネス」に抗して (『反貧困』)	第25回	政治学・行政学文献講読
第10回	強い社会を目指して ー反貧困のネットワークを (『反貧困』)	第26回	ゼミ論文作成状況のフォロー、個別指導
第11回	映画鑑賞 (前半)、個別面談	第27回	政治学・行政学文献講読
第12回	ポピュリズムとは何か (『ポピュリズムとは何か』)	第28回	政治学・行政学文献講読
第13回	解放の論理 ー南北アメリカにおける誕生と発展 (『ポピュリズムとは何か』)	第29回	映画鑑賞
第14回	抑圧の論理① ーヨーロッパ極右政党の変貌 (『ポピュリズムとは何か』)	第30回	ゼミ論文の発表
第15回	映画鑑賞 (後半)、個別面談	第31回	後期の総括、ゼミ論文の体裁、個別面談
第16回	レポート	第32回	レポート (または定期試験)

	ゼミナール名	ゼミナールⅢ（人間科学）		
	ゼミ担当者名	西巻 丈児（にしまき じょうじ）		
	科目分類	専門科目群		
	開講年次	4年次	開講期間	通年
	開講時限	水曜日3限	単位数	2単位
	実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 対面のみ <input type="checkbox"/> 遠隔のみ <input type="checkbox"/> 対面・遠隔併用		

ゼミのテーマ	人間の「いのち」について－いのちと経済との関係－
ゼミの到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・自分自身、ならびに他人の「いのち」を見つめる視点を獲得できる。 ・いのちと経済の関係から生ずる諸問題を説明できる。 ・自分の生き方を見つめる視点を養うことができる。
ゼミの概要	<p>生きることの根源とされる「いのち」とは、いったい何なのだろうか。また、「いのちに値段はつけられない」などと言われたりもするが、実際の所、さまざまな場面で「いのち」にその価値・値段がつけられ、いのちが市場経済に巻き込まれている現状がある。</p> <p>このゼミナールⅢでは、「生」と「死」にまつわるさまざまな問題を、「自己決定の概念」（自分に関連することは自身の意志で決定する）を柱にして考え、併せて、いのちと経済との関連も考えていく。</p> <p>つねに私たちの身近にある生と死についての諸問題を、ゼミ生各自が「自分の問題」として考えられるよう、ドキュメンタリー映像やさまざまな資料をふんだんに交えながら授業を進めていく。</p> <p>また、いのちにまつわる問題を一緒に考え、ディスカッションを積極的に行っていく。</p>
授業時間外の学習	<p>予習：（1.5時間程度） 授業の内容は連関しているので、毎回、配布する資料を復習しておき、前の回までの内容を自分なりに考えて授業に臨むようにすること。また、卒業論文完成に向けては、かなりの準備時間が必要となる。</p> <p>復習：（1.5時間程度） 毎回配布する資料に参考文献を記載するので、復習する際にはそれも参考にすること。</p>
履修条件	<ul style="list-style-type: none"> ・第1回目か第2回目のゼミナールに必ず出席して、「人間のいのち」に関する自身の問題意識を書くことが第一条件である。そして、履修登録に先立ち、本ゼミナールに参加希望する旨を直接本教員に表明し、面談を受けることが、第二条件である。 ・本ゼミナールでは、卒業論文を執筆することがゼミナールに参加する絶対の条件となっている。 ・卒業論文にまつわる発表が数回義務づけられ、また、ディスカッションの際には積極的に議論に参加することが求められる。
テキスト	特に指定はしない。授業中に毎回配布するプリントが教科書の代わりとなる。 また、パワーポイント、映像資料や文字資料も使用する。
参考文献・資料	授業内で適宜指示する。
成績評価の方法	<p>3分の2以上の出席を前提に、授業時に毎回提出してもらうリアクションペーパーによる理解度（20%）、発表時の内容（30%）と、定期試験（50%）を総合して、最終的な評価を下す。出席回数が規定に満たない場合及び授業料その他納入金等の全額を納めていない場合は、単位を認定できない。</p> <p>また、欠席、遅刻、私語、居眠り、無断退出等については減点の対象とする。</p>
オフィスアワー	月曜日 10:40～12:10、火曜日 10:40～12:10 事前連絡があれば、上記時間の他にも可能性あり。

成績評価基準	秀(100～90点)、優(89～80点)、良(79～70点)、可(69～60点)、不可(59点以下)
学生へのメッセージ	日々の暮らしの中に、自分自身の生き方を考えるさまざまなヒントが隠れている。解決することはできないかもしれないが、考え続けるということはとても大切なことである。一緒に人間の問題について考えていこう。

授業計画			
第1回	ガイダンス： ゼミ参加者の自己紹介とゼミの進め方	第17回	ガイダンス： 前期の復習と後期の授業展開
第2回	オリエンテーション： 人間のいのちと金銭をめぐる問題	第18回	卒業論文完成計画Ⅲ： 中間発表会①
第3回	人間のいのちをめぐる問題の諸相	第19回	卒業論文完成計画Ⅲ： 中間発表会②
第4回	重度障害新生児をめぐる：パーソン論の問題	第20回	卒業論文完成計画Ⅲ： 中間発表会③
第5回	卒業論文完成計画Ⅰ：(レポート執筆の準備) 文献の探し方、文献注記の書き方など	第21回	卒業論文完成計画Ⅲ： 中間発表会④
第6回	医療従事者と患者の関係： インフォームド・コンセントとは	第22回	自己決定を超える問題
第7回	生き方の自己決定とは	第23回	脳死からの臓器移植
第8回	生き方の自己決定と尊厳ある死	第24回	資源としてのいのち
第9回	世界に見る死の自己決定：安楽死について	第25回	脳死と人の死
第10回	死を決定する権利をめぐる	第26回	自分の生き方とは
第11回	卒業論文完成計画Ⅱ： 研究テーマとその概略の発表会①	第27回	卒業論文完成計画Ⅳ： 完成発表会①
第12回	卒業論文完成計画Ⅱ： 研究テーマとその概略の発表会②	第28回	卒業論文完成計画Ⅳ： 完成発表会②
第13回	卒業論文完成計画Ⅱ： 研究テーマとその概略の発表会③	第29回	卒業論文完成計画Ⅳ： 完成発表会③
第14回	卒業論文完成計画Ⅱ： 研究テーマとその概略の発表会④	第30回	卒業論文完成計画Ⅳ： 完成発表会④
第15回	前期のゼミのまとめと夏季休暇中の課題について	第31回	本ゼミナールの総括
第16回	定期試験	第32回	定期試験

	ゼミナール名	ゼミナールⅢ（表現文化）		
	ゼミ担当者名	橋元 志保（はしもと しほ）		
	科目分類	専門科目群		
	開講年次	4年次	開講期間	通年
	開講時限	金曜日2限	単位数	2単位
	実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 対面のみ <input type="checkbox"/> 遠隔のみ <input type="checkbox"/> 対面・遠隔併用		

ゼミのテーマ	大学生としてふさわしい教養を身につけるために、歴史・文化・文学について学び、文化の継承をはじめとする諸問題を考察し、論理的に表現できるようになる。
ゼミの到達目標	このゼミナールの単位を良好な成績で修得した場合、次のような知識・能力を修得できます。 1. 世界遺産を中心に日本や海外の文化に触れ、その歴史や特色を説明することができる。 2. 日本の古典から近現代文学を味読し、文化的背景も含めて理解することができる。 3. 文化や文学をテーマにした論理的な文章を書き、発表することができる。
ゼミの概要	表現文化ゼミナールでは、文学や芸術、世界遺産等を中心に国内外の文化に触れ、大学生にふさわしい教養を深めることを目的とします。また、日本の古典から近現代文学を中心に講読を行い、評論や論文を理解できるような読解力・思考力を涵養します。そして、文化や文学をテーマに論述・プレゼンテーションが行えるような表現力も身につけていきましょう。なお、卒業試験及び就職活動の指導も持続的に行っていきます。
授業時間外の学習	1. ゼミで取り上げる評論や小説を、指定された頁まで必ず読んできてください。また、難解な漢字や語句の意味は必ず調べておきましょう（1時間程度）。 2. 前期・後期ともプレゼンテーションの練習を行いますので、発表日までに、指定されたテーマによるパワーポイントの作成、及び発表準備を行うこと（1～2時間程度）。 3. ゼミで紹介した文学作品やエッセイ、評論等を読むことを推奨します（1～2時間程度）。
履修条件	① 「表現文化ゼミナール」Ⅰ・Ⅱ「文章の読み方」「小論文の書き方」「日本の文学」「福祉と文学」のいずれかの科目を履修し、単位を修得しているか、今年度、上記科目または「旅と文学」「世界の中の日本文学」のいずれかを履修する意欲があること。 ② もしくは、前期の履修登録期間中に面談し、真面目にゼミに参加する意思が確認できた人。 ③ 大学行事等で、他のゼミ生と一緒に行動することも多いので、皆と仲良くできること。 ④ 担当教員から連絡があった場合は必ず応答し、学則は遵守すること。
テキスト	授業時に資料を配布します。尾藤正英『日本文化の歴史』（岩波新書）・司馬遼太郎『坂の上の雲』第1～2巻（文春文庫）他
参考文献・資料	新編日本古典文学大系 38『今昔物語集』（小学館）・新編日本古典文学大系 63『室町物語草子集』（小学館）・東田雅博『ジャポニズムと近代の日本』（山川出版社）他
成績評価の方法	【主体的な学びの姿勢（25%）、課題の提出（25%）、定期試験（50%）】の総合評価とします。 1. 出席回数が規定に満たない場合及び授業料その他納入金等の全額を納めていない場合は、試験を受けることが出来ません。 2. 授業中の迷惑行為は厳禁です。そのような行為を繰り返し、注意しても改めない場合は、単位を認定できない場合があります。
オフィスアワー	火曜日（14:40～16:10）・木曜日（14:30～16:10）※左記以外の時間は、事前に予約してください。
成績評価基準	秀（100～90点）、優（89～80点）、良（79～70点）、可（69～60点）、不可（59点以下）
学生へのメッセージ	全員卒業、全員就職に向けて、皆で頑張っていきましょう！また、「学生時代の友人は生涯の友人である」という言葉もあります。悔いのないよう、学修や就活に励むのと同時に、皆で素晴らしい思い出をつくっていきましょう。

授業計画			
第1回	就活の極意 自己分析・適性と業種・企業研究	第17回	卒業試験対策 試験内容のポイント解説と振り返り学修
第2回	就活の極意 グループ・ディスカッションと面接対策	第18回	卒業試験対策 試験内容のポイント解説（観光）他
第3回	就活の極意 履歴書・エントリーシートのポイント	第19回	卒業試験対策 試験内容のポイント解説（経済）他
第4回	就活の極意 SPI 試験対策のポイント解説	第20回	卒業試験対策 論述のポイント・添削指導ほか
第5回	就活の極意 敬語・マナー・笑顔－面接の必勝法－	第21回	『日本文化の歴史』を読む④ 近世国家の成立と歴史思想
第6回	就活の極意 手紙文・ビジネスメールについて	第22回	『日本文化の歴史』を読む⑤ 元禄文化と近世社会
第7回	『日本文化の歴史』を読む① 古代国家の形成と日本神話	第23回	『日本文化の歴史』を読む⑥ 明治維新期の思想
第8回	『日本文化の歴史』を読む② 仏教の受容とその発展	第24回	『日本文化の歴史』を読む⑦ 近代日本における西洋化と伝統文化
第9回	『日本文化の歴史』を読む③ 漢風文化から国風文化へ	第25回	日本の近代と『坂の上の雲』① 国民国家の形成と西洋の影響
第10回	『鬼滅の刃』の世界観① 鬼とは何か－『今昔物語』他、古典文学の影響	第26回	日本の近代と『坂の上の雲』② 日清・日露戦争と国民の生活・文化
第11回	『鬼滅の刃』の世界観② 鬼とは何か－『御伽草子』他、古典文学の影響	第27回	論理的に表現する方法を学ぼう① 論文の要件・構成等について
第12回	『鬼滅の刃』の世界観③ 鬼狩りの系譜－『平家物語』 剣の巻の影響	第28回	論理的に表現する方法を学ぼう② 論文作法・表現等について
第13回	グループによるプレゼンテーション 発表・質疑応答・講評ほか	第29回	グループによるプレゼンテーション 発表・質疑応答・講評ほか
第14回	グループによるプレゼンテーション 発表・質疑応答・講評・論文紹介ほか	第30回	グループによるプレゼンテーション 発表・質疑応答・講評・論文紹介ほか
第15回	キャリア・デザインについて	第31回	<総括>文化を理解することの意義について
第16回	定期試験	第32回	定期試験

	ゼミナール名	ゼミナールⅢ（労働経済・社会保障）		
	ゼミ担当者名	藤本 剛		
	科目分類	専門科目群		
	開講年次	4年次	開講期間	通年
	開講時限	水曜日3限	単位数	2単位
	実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 対面のみ <input type="checkbox"/> 遠隔のみ <input type="checkbox"/> 対面・遠隔併用		

ゼミのテーマ	地域の労働経済・社会保障についての考察
ゼミの到達目標	地域の労働経済・社会保障に関連するテーマについて調査し、レポートにまとめ発表する。
ゼミの概要	労働経済・社会保障に関する知識を身につけ、自ら選んだテーマについて地域の実情を調べ、まとめる。
授業時間外の学習	地元紙に丹念に目を通し、素材となるテーマについて検討し、理解を深める。
履修条件	意欲的に取り組む気持ちが必要である。また、ゼミナール構成員同士の交流や意見交換に積極的に対応できるよう心掛けてほしい。
テキスト	プリント等を用意する。
参考文献・資料	石畑良太郎他編著『よくわかる社会政策』第3版 『厚生労働白書』各年版 『労働経済白書』各年版 秋田県商工会議所連合会監修『秋田ふるさと検定公式テキスト』秋田文化出版
成績評価の方法	出席状況、提出レポート、調査報告、ゼミ活動への積極参加姿勢 等から評価する。 出席回数が規定に満たない場合及び授業料その他納入金等の全額を納めていない場合は、試験を受けることができません。
オフィスアワー	月曜日の12時～13時 木曜日の17時～18時
成績評価基準	定期試験に準じる。 秀 (90～100点)、優 (80～89点)、良 (70～79点)、可 (60～69点)、不可 (0～59点)
学生へのメッセージ	最初にゼミを担当してから38年になります。でも10数年、附属こども園の兼務などもあって、昨年まではゼミから遠ざかっていました。新たな気持ちでゼミ活動に取り組んでいますので、よろしく。就活や卒論など、大学最後の1年間を大事に、共に有意義に送りましょう。

授業計画			
第1回	ゼミナール活動方針についての説明と話し合い。	第17回	グループ研究の一応のまとめ 各自、卒論テーマの絞り込み
第2回	「社会保障」で学んだ社会保険や年金のことを思い出そう。地域とのかかわりがどうなのか、考えてみよう。	第18回	グループ研究のまとめとパワポ作成①
第3回	「社会保障」で学んだ医療保険のことを思い出そう。地域と深いかかわりがあることを再認識しよう。	第19回	卒論テーマ決定と指導①
第4回	「社会保障」で学んだ介護保険のことを思い出そう。地域の活動にひとつの焦点が当てられていることは何を意味しているのか、考えてみよう。	第20回	パワポ作成②
第5回	ゼミナール大会で取り上げるテーマについて議論しよう。また、各自が取り組む卒論のテーマについても考えてみよう。	第21回	パワポ作成③と模擬発表 卒論指導②
第6回	前回の続き。そして、卒業試験対策をどう進めるか、話し合おう。	第22回	中間報告会にむけた準備と練習① 卒論指導③
第7回	ゼミナール大会の準備として、テーマの絞り込み、グループ分けなどについて話し合い、各グループで方針を決めよう。	第23回	中間報告会にむけた準備と練習② 卒論指導④
第8回	フィールドワークを含むグループ活動①	第24回	ゼミナール大会中間報告会（予定）
第9回	フィールドワークを含むグループ活動②	第25回	中間報告の反省と改善① 卒業試験対策⑥ 卒論指導⑤
第10回	フィールドワークを含むグループ活動③	第26回	中間報告の反省と改善② 卒論指導⑥
第11回	フィールドワークを含むグループ活動④	第27回	大会報告最終確認 大会準備
第12回	卒業試験対策②	第28回	ゼミナール大会予選（予定）
第13回	卒業試験対策③	第29回	ゼミナール大会本選（予定）
第14回	卒業試験対策④	第30回	卒論指導⑦
第15回	前期のまとめと今後の方針についての話し合い 卒業試験対策⑤	第31回	卒論指導⑧ ゼミ活動のまとめと今後についての話し合い
第16回	定期試験	第32回	定期試験

	ゼミナール名	ゼミナールⅢ (キャリアプランニング)		
	ゼミ担当者名	横田 恵三郎		
	科目分類	専門科目群		
	開講年次	4年次	開講期間	通年
	開講時限	金曜日 2限	単位数	2単位
	実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 対面のみ <input type="checkbox"/> 遠隔のみ <input type="checkbox"/> 対面・遠隔併用		

ゼミのテーマ	キャリアプランニングの考え方や重要性を理解し、卒業後観光系企業で職務を蓄積していく中、その手法の実践が出来るようになる。
ゼミの到達目標	社会に巣立つにあたって基礎的なビジネスのルールやマナー等を会得し、スムーズにキャリアの蓄積を開始できる状態になる。また進路先企業・業界の動向や競争環境、企業戦略を調査、研究し、卒業後仕事を行なうに資する知識や考え方が身につく。
ゼミの概要	昔とは異なり今や自分で自分のキャリアを築いていかなければならない時代となった。このゼミでは充実した幸せな仕事や人生を送るためにキャリア・プランニングの概念を学び、これまでの人生を振り返りつつ実際に目標と計画を立ててみることを考えている。前期ではキャリアの入り口である観光企業でのビジネスマナー等基礎的な能力や態度の涵養に軸足を置き、後期では自身の進路である観光企業ならびにその業界の状況や将来を調査、研究し、その中でキャリアプランニングが出来るようチャレンジしてみる。
授業時間外の学習	前期はビジネスマナー等演習の復習、後期は進路先観光企業やその業界について調査・研究発表が出来るよう日々情報の収集を行なうこと(1.5時間程度)。
履修条件	原則、3年次にキャリアプランニングⅡを履修済であること。また、ホテル、旅行会社、航空会社、鉄道会社等の観光系企業に進路を定め、現に就職活動を行なっている4年生
テキスト	その都度プリントを配付する。
参考文献・資料	その都度案内する。
成績評価の方法	定期試験 50%、取組姿勢 50%とし総合的に評価する。 出席回数が規定に満たない場合及び授業料その他納入金等の全額を納めていない場合は、試験を受けることができません。
オフィスアワー	水曜日：2限(10：40-12：10) 木曜日：2～3限(10：30-14：00)
成績評価基準	秀(100～90点)、優(89～80点)、良(79～70点)、可(69～60点)、不可(59点以下)
学生へのメッセージ	ホテル、旅館、旅行会社、鉄道会社、航空会社等の観光企業に進路を定めた学生の皆さん、いま不安や心配を抱えながら就職活動にあたっていることと思います。ただ、就職することが目標ではなく、節目の出発点であるに過ぎません。キャリアつまり仕事に焦点を当てた人生の始まりです。キャリアの入り口にあたり、観光企業での基本的なビジネスのルールやマナーについては是非会得して社会に巣立って下さい。

授業計画			
第1回	オリエンテーション① (トライアル参加) キャリアプランニングとは	第17回	社会人基礎力① 考え抜く力
第2回	オリエンテーション②(トライアル参加) キャリアプランニングとは	第18回	社会人基礎力② 論理的思考と批判的思考
第3回	自己紹介 個人面談	第19回	社会人基礎力③ チームワーク
第4回	キャリアの入口にあたって① ES	第20回	社会人基礎力④ 前に踏み出す力・行動力
第5回	キャリアの入口にあたって② 個人面接演習 a	第21回	相互理解を深める① 個人の価値観
第6回	キャリアの入口にあたって③ 個人面接演習 b	第22回	相互理解を深める② チームとしての価値観
第7回	キャリアの入口にあたって④ 敬語の使い方	第23回	観光系企業担当者のセミナー
第8回	キャリアの入口にあたって⑤ グループ面接演習 a	第24回	就職先業界の深掘り調査と研究① 報告会
第9回	キャリアの入口にあたって⑥ グループ面接演習 b	第25回	就職先業界の深掘り調査と研究② 報告会
第10回	キャリアの入口にあたって⑦ ビジネスマナーa	第26回	就職先業界の深掘り調査と研究③ 報告会
第11回	キャリアの入口にあたって⑧ ビジネスマナーb	第27回	就職先業界の深掘り調査と研究④ 報告会
第12回	キャリアの入口にあたって⑨ 接客の五原則	第28回	キャリアの入口にあたって⑫ ビジネス文書、ビジネスメールの基礎
第13回	キャリアの入口にあたって⑩ グループワーク a	第29回	観光企業の現場を想定したケーススタディー①
第14回	キャリアの入口にあたって⑪ グループワーク b	第30回	観光企業の現場を想定したケーススタディー②
第15回	まとめ	第31回	定期試験
第16回	個人面談		

	ゼミナール名	ゼミナールⅢ (公法)		
	ゼミ担当者名	渡部 毅 (わたなべ・たけし)		
	科目分類	専門科目群		
	開講年次	4年次	開講期間	通年
	開講時限	水曜日3限	単位数	2単位
	実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 対面のみ <input type="checkbox"/> 遠隔のみ <input type="checkbox"/> 対面・遠隔併用		

ゼミのテーマ	憲法・行政法・地方自治等に関し、各人が関心のあるテーマを設定し、卒業研究としてまとめる。
ゼミの到達目標	各人の関心のあるテーマについて卒業研究としてまとめること。 憲法や行政法の法的論点について理解し議論できること。
ゼミの概要	憲法、行政法または地方自治に関するテーマを設定し、研究計画の立案、文献の調査、読み込み、中間報告を行い、最終的には卒業研究として論文としてまとめ、発表してもらいます。
授業時間外の学習	ゼミナールⅢは、ゼミの時間以外に自ら行う主体的な研究が重要です。それぞれが関心を持つテーマについて、文献を渉猟し、読み込み、考えることを繰り返すこととなります。そうして得られた思索物を、最終的に卒業研究としてまとめる作業を行うこととなります。
履修条件	憲法や行政法等を履修していること。
テキスト	指定なし。憲法・行政法・地方自治等に関し、各人の関心のあるテーマに応じて文献を探すこととなります。研究に有用な文献・資料等については、必要に応じて随時助言します。
参考文献・資料	憲法・行政法・地方自治等に関し、各人の関心のあるテーマに応じて資料を探すこととなります。研究に有用な文献等については、必要に応じて随時助言します。
成績評価の方法	ゼミ内での報告 30% 参加姿勢 20% 卒業研究内容 30% 期末試験 20% 出席回数が規定に満たない場合及び授業料その他納入金等の全額を納めていない場合は、試験を受けることができません。
オフィスアワー	毎週火曜日 11:00～12:00 および金曜日 11:00～12:00 としますが、所用により不在の場合もあります。なお、これ以外の時間帯でも、研究室に在室している場合は、随時可能です。
成績評価基準	秀 (100～90点)、優 (89～80点)、良 (79～70点)、可 (69～60点)、不可 (59点以下)
学生へのメッセージ	学問に真剣に取り組む学生であること。

授業計画			
第1回	ガイダンス	第17回	中間報告①
第2回	研究の進め方・研究計画の作成方法	第18回	中間報告②
第3回	テーマ設定に関する学生との面談	第19回	中間報告③
第4回	研究テーマの設定	第20回	中間報告④
第5回	研究テーマに関する概要報告①	第21回	卒業研究作成指導①
第6回	研究テーマに関する概要報告②	第22回	卒業研究作成指導②
第7回	研究計画の発表①	第23回	卒業研究作成指導③
第8回	研究計画の発表②	第24回	卒業研究作成指導④
第9回	研究計画の発表③	第25回	卒業研究作成指導⑤
第10回	研究計画の発表④	第26回	卒業研究作成指導⑥
第11回	研究作法について	第27回	卒業研究発表①
第12回	修正した研究計画の発表①	第28回	卒業研究発表②
第13回	修正した研究計画の発表②	第29回	卒業研究発表③
第14回	修正した研究計画の発表③	第30回	卒業研究発表④
第15回	修正した研究計画の発表④	第31回	期末試験
第16回	前期のまとめ		